

《専門教育科目 専門基礎科目》

| | | | | | |
|---------------------------|--|-------|------|----------|-------|
| 科目名 | 保育方法論 | | | | |
| 担当者氏名 | 坂口 静子 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 | 3年・春期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 専門基礎-2 豊かな人間性の醸成 ◎ 専門基礎-5 指導・保育の専門性 | | | | |

《授業の概要》

遊び、人とのかかわり、生活など、保育の様々な場面での基本的な援助の方法を学ぶとともに、幼児理解に基づく自分なりの保育方法を発想し、さらに検討する力を身につけることを目指す。また、保育者自身が幼児の活動を種々に実体験し、身体で感じ取り活動そのものを味わってほしい。

《テキスト》

授業内の印刷物は、適宜授業者が用意し配布する。

《参考図書》

基本、テキストは使わず、配布プリントで内容を進めていく。ほか、参考資料は適宜配布

《授業の到達目標》

保育者には協同で事を進めていく力が要求される。それを体験するために、グループ創作を取り入れる。それによってチームワーク力・コミュニケーション力を身につけることを目標とする。

《授業時間外学習》

テーマ「保育者の協力と保育」ではグループ創作を連続して行う。グループで決定した課題到達のために課外での活動が多くなる。チームワーク力の涵養を期待する。

《成績評価の方法》

授業内で実施する課題・確認問題・レポート 90パーセント 平常点(授業のふりかえり) 10パーセントによって総合的に判断する。

教材作りでは個人の完成度を求めるために課外での時間を要する。

《備考（教員経験の有無）》

この教科は幼稚園の教員経験に基づき構成しています。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容 |
|----|-----------------------|--|
| 1 | オリエンテーション | 保育方法の基本理念 昨今の保育事情と課題 |
| 2 | 育児不安と子育て支援 | 子育て不安の要因と背景 脳科学の観点から |
| 3 | 地域連携と支援策 | 地域に開かれ、地域との連携が活かされる園を求めて 幼稚園教育要領と保育所保育指針の求める子育て支援・保護者支援 |
| 4 | 保幼小連携活動と保育 | 連携が必要とされる要因と背景 スタートカリキュラムとアプローチカリキュラム |
| 5 | 不適切な養育と保護者支援 | 保護者支援の要因と背景 マルトリートメントの観点から |
| 6 | 基本的な生活習慣と保育 | 教材作り 「ばばっと絵本」作り 2面活用 |
| 7 | 自己紹介教材づくり | 教材作り 「ばばっと絵本」作り 6面活用 |
| 8 | 遊びとICT教育 | 行事の取り組みとICTの活用 幼児の興味・関心の高まりへ |
| 9 | 子どもの遊びと素材 | 手遊び「ころころたまご」 軍手を使つての教材作り |
| 10 | 遊びと健康（身体表現） | 幼児ふれあい体操の創作 チームワーク力の涵養 |
| 11 | 園内での一コマ① 映像スクリプトより | 「自然は友だち」 遊びと環境 |
| 12 | 園内での一コマ② 映像スクリプトより | 「コマに夢中」「チャレンジ」 非認知能力の育成 |
| 13 | 園内での一コマ③ 映像スクリプトより | 「3歳と5歳の発達の差」を見つめて 保育者のかかわり |
| 14 | 協同的な遊び | 幼児自らが作る遊びの実際映像視聴 子どもが考える遊びと保育者の援助 |
| 15 | まとめ 実際の保育現場 | 映像で見る保育所保育指針 保育現場が担う社会的責任 |